





中古音: 聲母

					
k5	k 見	kh 溪	g {匣, 云, 以}	gh 群	ŋ 疑
t13	t {端, 知, 章}	th {透, 徹, 昌}	d {定, 澄, 以}	dh 禪	n {泥, 娘, 日}
	s {心, 生}	sh 書 三	x 邪 三	xh 船 上	l 來
	c {精, 莊}	ch {清母, 初}	z {從 上, 崇}		
p4	p {幫, (非)}	ph {滂, (敷)}	b {竝, (奉)}		m {明, (微母)}
q2	Ø 影	h 曉			

註	影 は聲母が無い状態とみなす。
	g は y を持つ綴りが接続すると 云 を担う。
	t, th, d, n は i を持つ綴りが接続すると 章, 昌, 以, 日 を担う。ただし、有標な綴りとして g も同じ条件で 以 を担うとみなし、合口の清韻, 昔 の綴り wien, wick は d ではなく g に接続させる。
	以, 禪; 邪, 船 は字音の数の比や聲母同士の関係などを基にした。韻鏡では 以 が 云 と共に喻母とされ、唐代長安方言では 禪 と 船、邪 と 從 が合流する。cf. 梵語音訳 “禪”, 越南漢字音
	書, 邪 や 群, 禪, 船 には三等韻が接続する。
	t, th, d, n; s; c, ch, z は二等韻の綴りや y を持つ綴りが接続すると 知, 徹, 澄, 娘; 生; 莊, 初, 崇 を担う。俟母は 崇 とみなす。
	輕唇音の発生以降、p, ph, b, m は yu, yu; ya, yo の何れかを持つ綴りが接続すると 非, 敷, 奉, 微母 を担う。ただし、m は 東 三, 屋 三; 尤 の綴り yun, yuk; yug が接続すると 微母 ではなく 明 を担い、これらの y を黙字にする。
	Tyun Kág Ym: Shien-múg
	Vatanabe Takàjuki @Segsyoxafu 2022-05-02

中古音: 四聲

	V	 平	 上	 去	 去	 入
	i	in, id	ín, íd	ìn, ìd		it
	y	yn, yd	ýn, ýd	ỳn, ÿd		yt
	u	un, ud	ún, úd	ùn, ùd		ut
	u	un, ud	ún, úd	ùn, ùd		ut
	e	en, ed	én, éd	èn, èd	èt	et
	a	an, ad	án, ád	àn, àd	àt	at
	o	on, od	ón, ód	òn, òd	òt	ot
		Tyun Kág Ym: Sid Shien				
		Vatanabe Takàjuki @Segsyoxafu 2022-05-02				


中古音: 韻母

等	母音字列n, ...t	...ŋ, ...k	...m, ...p	...d	...g	...w	
	三	V	i	{眞 ^(A) , 諄 ^A } in, {質 ^(A) , 術 ^A } it		侵 ^(A) im, 緝 ^(A) ip	脂 ^(A) id	幽 ^(A) iw	
			y	{眞 ^(B) , 臻, 諄 ^B } yn, {質 ^(B) , 櫛, 術 ^B } yt	p4, w 蒸 yn, 職 yk	侵 ^(B) ym, 緝 ^(B) yp	脂 ^(B) yd	幽 ^(B) yw	
	一		ur	{痕, 魂} urn, 沒 ut	登 urŋ, 德 urk	覃 urm, 合韻 urp	灰 urd	哈 urg	
			u	t13 合 魂 un, 沒 ut	東 ^一 un, 屋 ^一 uk		t13 合 灰 ud	侯 ug	
三	vV	iu/yr	{欣, 文} yurn, {迄, 物} yurt	蒸 iurŋ/yurŋ, 職 iurk/yurk	凡 yurm, 乏 yurp	微韻 iurd	之 iurg/yurg		
		iu/yr	t13 合 諄 iun/yun, 術 iut/yut	東 ^三 iurŋ/yurŋ, 屋 ^三 iurk/yurk		t13 合 脂 iud/yud	尤 iug/yug		
四	V	一	e	先 en, 屑 et	青 eŋ, 錫 ek	添 em, 帖 ep	齊 ed	蕭 ew	
			a	{寒, 桓} an, {曷, 末, 泰} at	唐 aŋ, 鐸 ak	談 am, 盍 ap	{歌, 戈 ^一 } ad	模 ag	豪 aw
			o	t13 合 桓 on, {末, 泰} ot	冬 on, 沃 ok		t13 合 戈 ^一 od		
三	vV	二	ie	仙 ^(A) ien, {薛 ^(A) , 祭 ^(A) } iet	清韻 ien, 昔 iek	鹽 ^(A) iem, 葉 ^(A) iep	支 ^(A) ied	宵 ^(A) iew	
			ye	仙 ^(B) yen, {薛 ^(B) , 祭 ^(B) } yet	{清韻, 庚 ^三 } yen, {昔, 陌 ^三 } yek	鹽 ^(B) yem, 葉 ^(B) yep	支 ^(B) yed	宵 ^(B) yew	
			ia/ya	元 yan, {月, 廢} yat	陽 ian/yan, 藥 iak/yak	嚴 yam, 業 (iap)/yap	戈 ^三 (iad)/yad	{魚, 虞} iag/yag	
			io/yo	t13 合 仙 ion/yon, {薛, 祭} iot/yot	鍾 ion/yon, 燭 iok/yok		t13 合 支 iod/yod	t13 合 虞 iog/yog	
	二		ure	山 uen, 黠 uret	耕 uen, 麥 urek	咸 uem, 洽 urep	皆 ued	佳 ureg	肴 urew
			ura	刪 uran, {鎋, 夬} urat	庚 ^二 uraŋ, 陌 ^二 urak	銜 uram, 狎 urap		麻 ^二 urag	
			uro	t13 合 刪 uron, {鎋, 夬} urot	江 uron, 覺 urok			t13 合 麻 ^二 urog	
三	vvV	ira		t13 昔 irak		麻 ^三 irag			
	註		緑枠内の綴りは開口の韻母 (魚 を含む) を担う。対応する合口の韻母 (虞 を含む) は、p4 では開口の綴りが、k5, q2 では開口の綴りの直前に子音字 w を加えたものが、t13 では u, o を持つ綴りが担う。cf. 日本漢字音						
			...w ではなく ...b とすべきかも知れないが、d, g と違って b には半母音的な音価の保証となる聲母が無い為、...b を避けた。						
			関連する字音の数、聲母、上古韻部から、i, y; e の直後では ...d を、a, o の直後では ...g をこの二列に於いて無標とみなす。						
			t13 では字音の数から i を、p4 や k5, q2 では字音の数や韻鏡での等位から y を三等韻の綴りに於ける最初の母音字として無標とみなす。青色の欄の綴りは t13 に接続することが殆ど無い。						
			[香幽反] と [許彪反] の対立の無い廣韻以降を記述対象とすることで、幽 の綴りが k5, q2 に接続する場合も同様に y を無標とみなす。ただし、[伊謬切] は類相関により iw となる。cf. 侵, 緝						
			重唇音への接続、類相関、之 との関係から、蒸, 職 の綴りは p4, w に接続する場合を yn, yk、それ以外を iurŋ/yurŋ, iurk/yurk とする。ただし、[綺兢切] は類相関により khyn となる。廣韻以降を記述対象とした為、[於力反] と [於棘反] の対立は扱わない。						
			重唇音への接続、類相関、上古韻部の傾向、麻 ^三 との関係、蒸, 職 への 之 の分布の活用から、開口の 昔 の綴りは t13 に接続する場合を irak、それ以外を iek/yek とする。清韻 には 昔 の様な上古韻部の傾向が無い。						
			溪 での対立の可能性、聲符「凡」と上古侵部の関係 (王念孫の解釈での韻字「汎」によるものを含む)、「汎」と「泛」の関係から、凡, 乏 は 嚴, 業 と音韻的に異なるとみなし、その綴りを yurm, yurp とする。cf. 東 ^三 , 屋 ^三						
			生; 莊, 初, 崇 に接続する 庚, 陌 について、上古韻部の傾向から、生 に接続する 庚 を三等韻、それ以外を二等韻とみなす。						
			戈 ^三 には平聲しか無い。泰, 祭, 廢, 夬 は ...t の去聲とみなす。cf. 梵語音訳 “貝多羅”, {端, 知, 章}						
		聲母と韻母の組み合わせが記述できないものである場合、近古音などに基づく近似の字音で代用する。 例: “地” [定, 脂, 開, 去] (廣韻 [徒四切], 韻鏡 [開; 舌音, 濁; 至, 四等]) d + id, 中原音韻 [帝] → [定, 齊, 開, 去] dèd							
		Tyuŋ Kág Ym: Gwyùrŋ-múg							
		Vatanabe Takàjuki @Segsyoxafu 2022-05-02							

📖 参考文献

	書誌
概説	中村 雅之. “音韻学入門～中古音篇～”. 漢語音韻史の教室. 1998. http://chinese-phonology.com/nyumonkouza.html .
	Schuessler, Axel. <i>Minimal Old Chinese and Later Han Chinese: A Companion to Grammata Serica Recensa</i> . University of Hawaii Press, 2009, (ABC Chinese Dictionary Series, no. 20). eBooks.com, https://www.ebooks.com/en-jp/book/96304289/minimal-old-chinese-and-later-han-chinese/axel-schuessler/ .
	藤堂 明保, 水谷 真成, 平山 久雄, 菊田 正信. “II 音韻論”. 言語 新装版. 牛島 徳次, 香坂 順一, 藤堂 明保 (編). 大修館書店, 2011, p. 33–178, (中国文化叢書, no. 1).
	太田 斎. “韻書と等韻図 I”. 神戸市外国語大学研究叢書. 神戸市外国語大学外国学研究所, 2013, no. 52, p. 1–258. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00001322/ .
	太田 斎. “韻書と等韻図 II (完)”. 神戸市外国語大学外国学研究. 神戸市外国語大学外国学研究所, 2016, vol. 92, p. 145–246. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00002198/ .
	太田 斎. “韻書と等韻図 I/II 補説”. 神戸外大論叢. 神戸市外国語大学研究会, 2017, vol. 67, no. 54, p. 1–28. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00002154/ .
	Shen, Zhongwei. <i>A Phonological History of Chinese</i> . Cambridge University Press, 2020. eBooks.com, https://www.ebooks.com/en-jp/book/209931523/a-phonological-history-of-chinese/zhongwei-shen/ .
論文	平山 久雄. “切韻における蒸職韻と之韻の音価”. 東洋学報. 東洋文庫, 1966, vol. 49, no. 1, p. 42–68. 東洋文庫リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1629/00005047/ .
	太田 斎. “蒸職韻、幽韻における重紐の痕跡”. 神戸外大論叢. 神戸市外国語大学研究会, 2021, vol. 73, no. 3, p. 1–65. 神戸市外国語大学学術情報リポジトリ, http://id.nii.ac.jp/1085/00002391/ .
字音	韻鏡 1 卷. 出版者不明, 1564, doi:10.11501/2532126. 国立国会図書館デジタルコレクション, https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2532126 .
	鈴木 慎吾. “王念孫 侵部平聲韻譜”. 諸家先秦兩漢三國韻讀. http://suzukish.s252.xrea.com/search/xianqin/index.php?yunbu=侵平&scholar=王念孫 .
	鈴木 慎吾. 漢語上古音検索 (鄭張音). http://suzukish.s252.xrea.com/search/zhengzhang/search_top.php .
	鈴木 慎吾. Web韻圖 ～廣韻検索～. http://suzukish.s252.xrea.com/search/inkyō/index.php .
	鈴木 慎吾. 切韻諸本輯覧. http://suzukish.s252.xrea.com/search/qieyun/index.php .
	漢字データベースプロジェクト. 宋本廣韻データ. http://kanji-database.sourceforge.net/dict/sbgv/index.html .
	郭 家寶 (alias BYVoid). 韻典網. https://ytenx.org/ .
	臺灣大學中國文學系, 中央研究院資訊科學研究所. 漢字古今音資料庫. https://xiaoxue.iis.sinica.edu.tw/ccr .
	Jerry. 古今文字集成. http://www.ccamc.co/index.php .
字源	優質教育基金, 香港中文大學人文電算研究中心 (alias Humanum). 漢語多功能字庫. http://humanum.arts.cuhk.edu.hk/Lexis/lexi-mf/ .
日本語	沼本 克明. “日本漢字音の歴史”. 東京堂出版, 1986, (国語学叢書, no. 10).
	山田 俊雄. “万葉仮名”. 改訂新版・世界大百科事典. 平凡社 (編). 平凡社, 2007. ジャパンナレッジ (サンプルページ), https://japanknowledge.com/introduction/keyword.html?i=375 .
	全訳 漢辞海 第四版. 戸川 芳郎 (監修). 佐藤 進, 濱口 富士雄 (編). 三省堂, 2017. 辞書 by 物書堂, https://www.monokakido.jp/ja/dictionaries/kanjikai2 .
	角川新字源 改訂新版. 小川 環樹, 西田 太一郎, 赤塚 忠, 阿辻 哲次, 釜谷 武志, 木津 祐子 (編). 角川書店, 2017. 辞書 by 物書堂, https://www.monokakido.jp/ja/dictionaries/shinjigen2 .
越南語	CJKI越日辞典. 日中韓辭典研究所, 井上 寛 (編). 2020. https://cjkj.org/samples/vjgv_j.htm .
前提	渡邊 隆之 (alias Vatanabe Takàjuki). “原則”. Segsyoxafu. 2021. https://segisyoxafu.wordpress.com/gwensoku/ .

🧩 使用文字

	墨字	数	
子音字	b, c, d, g, h, k, l, m, n, ŋ , p, s, t, w, x, z	16	25
母音字	a, e, i, o, u, u , y	7	
被せ音字	ó, ò	2	
不使用	f, j, q , r, v	5	
代用表記	ŋ → q		
	ʊ → v		
	ó, ò → ○		
	Vatanabe Takàjuki @Segsyoxafu 2022-05-02		